

Keyword: 「在日外国人」「日本国内の問題」「朝鮮人」「差別」「朝鮮学校」

1. 研究の背景

黒人差別などが世界的に注目され、問題視されている中、日本人ももっと日本国内に起こっている差別について知り、考えるべきだと考えた為、在日コリアンについて研究しようと考えた。

2. 先行研究の検討

日本内には朝鮮学校と呼ばれる在日コリアンが通う学校がいくつかある。日本の政府は彼らの学校を高校無償化法の対象外とした。日本内には朝鮮学校のような違う国の子どもが通う学校があるが、対象外になったのは朝鮮学校のみであった。この案が出た当初は朝鮮学校も対象内になっていた。彼らはこのような公な差別も受けている。しかし、ここで生まれる疑問が彼らは、「なぜ韓国に戻らず日本に定住しているのか」である。彼らが日本に来た時は韓国と北朝鮮の2つの国には分かれてはいなかった。彼らが日本に渡り、日本で過ごしている間に分断されてしまったのである。しかし実際には、彼らの中には朝鮮国籍から韓国国籍にして韓国へ渡っている人もいる。一方で、在日コリアンの中にも朝鮮国籍の人は残っている。彼らは、自分の家族が北朝鮮側に取り残されていることを考えて国籍を変えずに過ごし、日本に定住していると考えられる。

なぜ、在日コリアンに対してこのような差別が起こるようになったのだろうかという問いの際、著者は情報不足により断片的な情報から差別が形成されていると述べている。私たちは実際に北朝鮮やそれ以前の朝鮮に行ったことがなく、行くこともできない。そのため、その国の国民の生活の様子などがわからず、自分たちに与えられた一部の情報で勝手に考えてしまうことが一番影響していると思う。そのため、断片的な情報から嫌悪感情が生まれてくるのではないかと考えた。

3. 独自研究

このテーマを探究していく中で、国際生だけでは範囲が狭く偏った意見しか得られないと考えたため、アンケートをとるのではなく、収集した資料より検討を進めることとした。日本人は在日コリアンだけでなく在留外国人についてどれだけのことを知っているのか疑問に思った。この問いに対する私の意見として、多くの日本人は彼らについて知らないのではないかと考えた。集めた資料で確認した結果では、私の予想通り日本人が在日朝鮮人などについて知っていることは少なかった。最近、よく使われている多文化共生という言葉でさえも知らない人や言葉は知っていても意味はわからないという意見が多かった。

4. 結論と今後の課題

これらの結果から考えたことは、現在の日本は若者が政治に関して興味が少なくなっていることが問題である今、日本内でどんなことが問題になっているのか分からない人が多いのではないかと考えた。もう一つの理由は、嫌韓だと考えられる。彼らを批判するつもりはないが、彼らが身内にいることでこの問題について知る機会は少なくなると考えたからだ。今後の課題としては、より最近の資料を探し出す必要がある。また、現在ある資料と新しい資料を比較して思考の違いなどが見られるかなどを知る必要がある。これからもこの問題について考えていきたい。

参考文献

山本かほり(2022)「在日朝鮮人を生きる」

JCIE日本国際交流センター(2023)「活動報告」

日本国際交流センター(2023) 在留外国人に関する意識調査 アンケート結果報告

<https://www.jcie.or.jp/japan/report/activity-report-17426/> (2023年9月22日参照)